

9 コンデンサ・リアクトルの保守点検項目

コンデンサの保守点検項目

No.	点検項目	点検方法	点検要領及びポイント	点検周期	異常の推定原因と対策	
					推定原因	対策
1	端子部のゆるみ	目視及び締付チェック	①端子部の過熱はないか ②変色していないか	1年	締付部のゆるみ	増締め
2	碍子の破損	目視	①碍子のひだ欠けはないか	1年	碍子への衝撃	製品の交換
3	ケースの異常膨れ	目視及び測定	ケース膨れの目安(片側) 10.6~53.2kvar 10mm以内 79.8~106kvar 15mm以内 160~319kvar 20mm以内 426~532kvar 25mm以内	1年	内部故障	直ちに運転を停止し 弊社へご連絡
4	油漏れ	目視	①油漏れはないか	1年	碍子部、溶接部のシール不足	弊社へご連絡
5	ケース等の発錆	目視	①端子部に発錆箇所はないか ②溶接箇所に発錆箇所はないか	日常	雨水、水滴の付着 特殊ガスの存在(悪環境)	水分浸入の防止、再塗装 ガス侵入の防止
6	異臭	嗅ぐ	①放電によるオゾン臭はないか ②異常な温度上昇はないか	日常	外部コロナ発生 過負荷	原因を究明し対策実施 電圧、電流を調査
7	異常音	聴く	①内部または外部から異常音が発生していないか	日常	内部故障 高調波または他機器が発生するノイズの侵入 締付部のゆるみ	弊社へご連絡 電流及び他機器の調査 増締め
8	ケース温度上昇	温度計	①サーモラベルによる監視が容易 ②定格電圧で上昇値15℃以下 (ケース高さ2/3H)	1年	過負荷 内部故障	電圧、電流の調査 弊社へご連絡
9	保護装置	目視ほか	①端子台の発錆 ②リード線締付け状態	1年	湿気、ガスの存在(悪環境) 締付部のゆるみ	侵入防止、研磨 増締め
10	絶縁抵抗の測定	メガー	①全端子一括とケース間 1000MΩ以上	1年	内部故障 碍子の重汚染	弊社へご連絡 再度清掃
11	静電容量の測定	Cメータ または 電圧電流計法	①定格容量の-5~+10%以内 ②任意の2端子間の容量の最大値 と最小値との比は1.08以下	1年	内部故障	弊社へご連絡

(注) 1. No.3 ケースの異常膨れ：サージ吸収用・接地用は除く。
2. No.8 ケース温度上昇：上昇値目安は製品によって異なります。
10℃以下：LV-6, NV-2, NVG-2, 15℃以下：NFC-1, N2, E, FG, 25℃以下：RG-2

リアクトルの保守点検項目

No.	点検項目	点検方法	点検要領及びポイント	点検周期	異常の推定原因と対策	
					推定原因	対策
1	端子部のゆるみ	目視及び締付チェック	①端子部の過熱はないか ②変色していないか	1年	締付部のゆるみ	増締め
2	碍子の破損	目視	①碍子のひだ欠けはないか	1年	碍子への衝撃	製品の交換
3	油漏れ	目視	①油漏れはないか (溶接部、ガスケット部)	1年	碍子部、溶接部のシール不足	弊社へご連絡
4	ケース等の発錆	目視	①端子部に発錆箇所はないか ②溶接箇所に発錆箇所はないか	日常	雨水、水滴の付着 特殊ガスの存在(悪環境)	水分浸入の防止、再塗装 ガス侵入の防止
5	異臭	嗅ぐ	①放電によるオゾン臭はないか ②異常な温度上昇はないか	日常	外部コロナ発生 過負荷、高調波流入	原因を究明し対策実施 電圧、電流を調査
6	異常音	聴く	①内部または外部から異常音が発生していないか	日常	内部故障 高調波または他機器が発生するノイズの侵入 締付部のゆるみ	弊社へご連絡 電流及び他機器の調査 増締め
7	ケース温度上昇	温度計	①サーモラベルによる監視が容易 ②定格運転で温度センサ取付部の上昇値 -20/A: 45℃以下, -20/B: 35℃ 以下(油入仕様の場合)	1年	過負荷、高調波流入 内部故障	電圧、電流の調査 弊社へご連絡
8	絶縁抵抗の測定	メガー	①全端子一括とケース間 1000MΩ以上	1年	内部故障 碍子の重汚染	弊社へご連絡 再度清掃
9	油の劣化	採油	①油が褐色化していないか	5年	温度上昇	弊社へご連絡